

酒田市総合計画審議会 第4回ひとづくり・まちづくり部会 議事要旨

1 日時

令和4年6月20日（月） 午前10時から正午まで

2 場所

酒田市役所本庁舎（3階）第一・第二委員会室

3 出席者

【酒田市総合計画審議会 ひとづくり・まちづくり部会委員】

| 所 属 | 氏 名 | 備 考 |
|--------------------------|-------|------|
| 酒田市自治会連合会連絡協議会 会長 | 阿部 建治 | 部会長 |
| 東北公益文科大学 准教授 | 小関 久恵 | 副部会長 |
| 酒田市社会福祉協議会 会長 | 阿部 直善 | |
| 酒田市法人保育園・認定こども園協議会園長会 会長 | 池田 祐子 | |
| 酒田ユニサイクル ケセラ 代表 | 石黒 由香 | |
| 酒田市環境審議会 副会長 | 大井 文 | |
| 東北公益文科大学 学長 | 神田 直弥 | |
| 酒田市食生活改善推進協議会 前会長 | 佐藤 初子 | |
| 生涯学習施設「里仁館」 館長 | 富士 直志 | |
| 合同会社とびしま 業務執行役員 | 松本 友哉 | |
| 庄内みどり農業協同組合 青年部委員長 | 御船 浩弥 | |

【事務局】

副市長、総務部長、危機管理監、地域創生部長、市民部長、健康福祉部長、健康福祉部地域医療調整監、建設部長、農林水産部長、教育次長、教育次長（教）、企画部長、企画部デジタル変革調整監、CDO補佐官、企画調整課長、企画調整課職員

4 議事内容

○事務局より会議の成立について報告

・本日の出席委員は11人であり委員定数13人の半数以上となっていることから、酒田市

総合計画審議会条例施行規則第4条第2項の規定により、本日の会議は有効である。

【阿部部会長】

- ・私たちの将来、希望、夢に向かって作っている総合計画である。私たちのみならず、私たちの子どもや孫まで続くよう、また、私たちの経験を総合計画の策定に活かしたいので、協力をお願いしたい。

5 審議

(1) 今後の方向性及び主な施策について（1回目）

○事務局より資料の見方及び進め方について説明 ※参考資料1・2

- ・本日の部会では、政策の今後の方向性と主な施策について意見を頂戴する。記載内容は市内部で検討したものだが、委員の皆さまからは、今度の方向性と主な施策が適切に設定されているか、重要な課題に対して漏れているものはないか、新たに設定すべきものはないかという視点で意見をいただきたい。これらの内容が今後5年間の市の施策になる。
- ・最初に、事前に指定の3つのグループに分かれて審議・意見交換を行う。休憩を挟み、次に、全体で審議を行う。

○今後の方向性及び主な施策に対する意見等（グループ単位での審議）

第1章 未来を担う人材が豊富な酒田

政策1 協働の芽吹きとなる市民参加があふれるまち

- ・市民参加の機会充実の部分にデジタル活用の視点も盛り込むべきである。既に「リビングラボ」などは、数回実施している。
- ・広聴の部分について、もっと具体的な施策も示すべきである。
- ・地域共創人材を定義づけするべきである。
- ・地域の課題や強みと地域共創人材をマッチングしていく必要があり、そういった部分も盛り込むべきである。
- ・「ボラポートさかた」による公益活動団体間の交流促進についても実施していくべきである。
- ・市民活動を長期的な取組みとするためにも、「酒田市公益活動団体協働提案負担金制度」に期待している。

政策2 大学とともにつくる「ひと」と「まち」

- ・市内高校からの入学者が少ない。高校の探求学習などで、市が高校と大学の間に入り連携を促すべきである。
- ・大学の良さ、情報が伝わっていない。広報紙に頼らない広報に力を入れるべきである。
- ・実際に大学に足を運ぶ機会があると良い。
- ・大学が育成する人材と、地域が必要とする人材について議論されてこなかった。DX人材育成に係るプラットフォームの構築は良いが、DXだけにとどまらず、広い分野でのプラットフォームが必要である。DXはその一部門である。

政策3 公益の心を持ち明日をひらく子どもたちを育むまち

- ・義務教育の中ではあるが、小さいうちから自由に学べる環境があるといい。
- ・「発達段階に応じた教育支援」とあるが、「学習支援」の方が適切ではないか。
- ・「グローバルな視野」の育成と書かれているが、酒田の企業はそれを必要としているか。地元で活躍する場がないのではないか。
- ・支援を必要とする子への切れ目のない「適切な支援」は、大学卒業後は就職しかない。自立に繋げるよう踏み込んだ表現が必要ではないか。
- ・「交通安全教育」について書かれていない。載せたほうがいいのではないか。
- ・家庭学習は大事である。できない子へのフォローが必要である。
- ・教職員の研修は、中堅が少ない中で重要となっている。
- ・文化芸術に触れる機会を増やすことは大事だが、豊かな心をどのように育てるのか。
- ・スクール・コミュニティ構想は、市民が理解していない。知ってもらったうえで参画を進めてほしい。

政策4 学びあい、地域とつながる人を育むまち

- ・人生100年時代を見据えた学びの推進で、「学び」だけでいいか。社会への貢献といった事も必要ではないか。
- ・ふるさとを愛し、「地域の担い手」とあるが、ここでいう地域は文化芸能等の発展のための人材であり、表現が大きすぎるのではないか。
- ・70、80歳台向けのニュースポーツが増えている。広く普及してもらい、実践につなげてほしい。
- ・体育施設について、表現はこのままでいいが、スポーツが多様化している状況を踏まえながら適切に使用できるようにしてほしい。

第4章 暮らしと生きがいを共に創り、お互いが支え合う酒田

政策1 誰もがいきいきと暮らしやすいまち

- ・地域福祉活動を支える担い手不足に対して、「前期高齢者も担い手となって」と課題にあるが、サポートしている側に後期高齢者も結構多いので、「前期高齢者も」ということで限定した表現にしなくてもいいのではないか。
- ・いわゆる生活保護以前の課題への取組みである「生活自立支援センターさかた」の記載があり、主な施策に出てきており、実際に相談件数が増えている実態、フードバンクの利用も増えている実態があるので、課題に加えるべきではないか。
- ・地域・教育・医療・福祉の各分野の連携を深めるということで、相談体制の充実と相談支援と発達支援ネットワークの拡充と良いことが書いてある。一方で第1章の教育関連の部分には、主に学校教育のことは書いてあるが、他との連携の記載がないようである。連携は取れているか。
- ・「地域包括支援センターの再編と機能強化」と記載があるが、介護保険運営協議会などの議論を縛ることにはならないか。

- ・地域包括システムの「地域」の概念と、スクールコミュニティなど他の取組みのエリアの概念はどのように整合性があるのか、あるいは役割分担しようとしているのか整理をお願いしたい。
- ・各分野の連携を深め、相談体制の充実、相談支援と発達支援ネットワークの拡充を図ると打ち出しているのに、是非、実態にあわせて福祉課と子育て支援課がしっかりと連携強化を図って欲しい。

政策2 結婚・妊娠・出産・子育ての希望がかなうまち

- ・柱立てを「結婚・妊娠・出産・子育ての支援」とまとめているが、なぜ一本化したか疑問。結婚するまでが一つ大きな仕事なので、「妊娠・出産・子育て」とは切り離した方がいいのではないか。
- ・子どもを産んで育てるなら酒田というふうに、移住と結婚をうまく結びつけることはできないか。
- ・ヤングケアラーについて状況を把握すると記載があり、第1章の教育の部分には記載がないが、学校での把握はきちんとなされているか。
- ・ニーズに合った特別保育のところに、「子育て支援」も入れて欲しい。支援センターがあるところだけが「子育て支援」をしているのではなく、独自にやっている園もあり、保護者からも求められていることから、身近な相談窓口がある、選択肢がたくさんあることが子育て支援に繋がる。

政策3 健康でいつまでも活躍できるまち

- ・健診しないで命を落とす方がおり、健診していれば助かったのではないかというのは感じる。元気で過ごしているとなかなか健診という意識がないので、一歩踏み込んで健診してもらえるような施策があればよい。
- ・生きがいづくりの場で高齢の方が他の方の病気や医院での話を聞くことによって、高齢化によって引き起こされる病気や治療法についての情報交換に結びついている例もある。
- ・健康寿命の定義はきちんとあるか。注釈などに記載した方がいいのではないか。
- ・第4章だけに限らないとは思いますが、DXを進めることにより、地域福祉の何かに使えるとか、具体的にイメージできる事例を示して、イメージしてもらうことができればいいのではないか。例えば、老人クラブを廃止した自治会で、別に立ち上げた団体の参加案内をグループラインでやっているといった事例もある。

第5章 地域のつながりと安全・安心にあふれた暮らしやすい酒田

政策1 住民と行政の協働による地域運営ができるまち

- ・人口減少等により自治会の機能維持は困難になっていく。「単独」を「広域」に、または、「再編」や「広域連携」について触れてはどうか。
- ・コミュニティ財団のようなものを検討してはどうか。

政策2 「全員参加」でつくる美しいまち

- ・プラスチック資源循環について「推進」では誤解されるのではないか。プラスチックを作らない、使わないことにも触れてはどうか。

- ・環境教育について触れなくてもよいか。
- ・市民一人ひとりの意識づけが重要となる。

政策3 地域との連携でつくる安全・安心なまち

- ・一か所に防災拠点を整備することも大事だが、拠点が分散していることも大事である。コミュニティセンターに資機材を置き拠点とするのは良い。
- ・消防団員数の不足等、担い手不足に対応するため、社員数の多い企業に防災講習をしてはどうか。
- ・積雪で地区の空き家の屋根が破損したとき、見守り隊は見守ることしかできなかった。
- ・通学路の点検等、市民から情報提供をもらうことにDXを絡めていってはどうか。

政策4 「暮らしの足」が維持されるまち

- ・現状で事業系ごみは定期船に載せられないが、今後の運用方法の可能性について確認してほしい。

政策5 自然環境、歴史、文化、産業で多様性を広げるまち（八幡、松山、平田地域と飛鳥）

- ・鳥海山に人は来るが、飲食等で地域住民とのかかわりは薄い。地域住民が稼げるよう勉強する必要がある。
- ・外部人材がかかわりやすくなる、そう思えるようにしたい。市内の自治会を回って飛鳥を周知したい。

（2）今後の方向性及び主な施策について（2回目）

○今後の方向性及び主な施策に対する意見等（全体での審議）

（阿部部会長）

- ・ただ今の説明を踏まえて、各グループ（1・4・5章）について、追加すべき事項や全体的に視点が違うのではないかということなど、感じたことなどあれば発言をお願いしたい。

（委員）

- ・第4章の意見発表で説明はあったが、補強させていただきたい。第1章でスクールコミュニティという概念が地域との連携ということで出てきた。第4章では地域包括支援センターの再編・機能強化をもう少し検討することであったが、現在、中学校区域や旧3町地域で、また、第5章ではコミュニティ振興会という旧小学校区単位で、酒田市の地域づくりが語られている。
- ・酒田市はどこに依拠して地域づくりを進めようとしているのか、政策ごとに変えていくのか、あるいは一貫した形で、それぞれ整合性を持って進めていこうとするのか。この点について整理してもらいたい。
- ・現に、まちづくり推進課では、地域ビジョンをコミュニティ振興会単位で進めている。その他、日常生活支援体制整備もコミュニティ振興会単位である。その整合性あるいは分担について、しっかりと整理してほしい。

（副市長）

- ・ご指摘のとおりだと思うので、整理したい。基本的には、コミュニティ振興会単位は、大

きくは変わらず、更にスクールコミュニティということである。コミュニティ振興会単位の取り組みをやめるものではないと解釈している。なお、より分かりやすく整理したい。

(委員)

- ・第5章・政策4の施策「地域公共交通の維持」について、現状における課題の方に「カーボンニュートラルの観点から公共交通の利用推進が期待されている」という文言がある。日常的に公共交通を使っていない方に、ぜひとも使ってもらうような取り組みが必要になってくる。
- ・ここでは、「潜在的利用者の意見収集」とあるが、それ以外にモビリティマネジメントという手法がある。これは、車利用から車以外の移動手段への転換を図る手法で、比較的取り組みやすいものである。
- ・例えば、公共交通を使って移動したときに、もしも、今回車で移動したとした場合には、CO₂の排出量がどれくらいで、今回これくらいは削減できたであるとか、公共交通の場合には徒歩移動が伴うため、消費カロリーが車移動の場合と比べて、これだけ増やせたというようなことで、フィードバックをするものである。
- ・車で移動した場合に、バスで移動すればこれだけCO₂が削減できたという情報を発信し、コミュニケーションしていくことを通して車移動の削減を図る。特に、現在、DXの取り組みが進んでいるので、こうしたこともできるのではないかと考える。モビリティマネジメントの推進ということも記載しても良いのではないか。
- ・例えば、人手不足の対応であれば、自動運転がある。公共交通の自動運転が少しずつ進んできているので、自動運転の導入の検討であるとか、あとはMa a Sとって、公共交通の利便性の向上をしていくための一連の方策を総称してMa a Sと呼んでいるものがある。
- ・ここでは、「運賃キャッシュレス化導入」について記載されているが、例えばデマンド交通で目的地付近に来た後で、そこで自転車が借りられ、目的地の入館券を含めてすべてセットで予約をすることができるような仕組み、これもDXで十分できると思う。こうした技術を活用することによって、観光での利用促進を図っていくことも可能である。こういった取り組みも、可能な限り記載していただければありがたい。

(地域創生部長)

- ・DXを含めて、社会に新しく実装できるシステムもかなり出てきているかと思う。記載方法を検討させていただきたい。

(副市長あいさつ)

- ・委員の皆さまには、出席いただき感謝申し上げます。ありがたい意見をたくさん頂戴した。職員にお願いしたいのは、頂戴した意見を一つ一つ、十分に検討して次回持ってきてもらいたい。職員も大変忙しいわけだが、忙しくて、そんなことはできないという部こそ、ぜひ時間をかけてやってほしい。総合計画を作る意義は、これからの5年、10年を考えて、方向性を本当によく議論することだと思っている。確かに、時間はかかるが、こういうことにこそ時間をかけてほしい。

- ・職員の間での対話、それから市民との相談業務を含めた対話に時間をかけてもらい、作業的なことは省略するとか、あるいはDXを使ってやってもらいたい。職員間、市民間の意見交換こそ時間をかけて良い方向性を出し、そして7月の部会にまた持って来られればと思っている。委員の皆様からは、今しばらく力をいただきたいと思う。引き続きどうぞよろしく願います。

○連絡事項（事務局より）

- ・次回の部会は、7月25日（月）午前中ということで予定させていただく。

6 閉会

以 上